

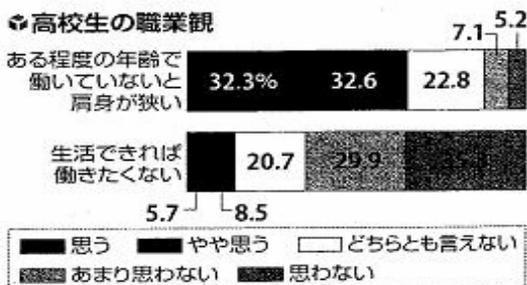
“しごと観育成” 研究会の活動と調査に関する新聞記事

「読賣新聞」 2008年8月8日

仕事への関心 学習意欲刺激

やりたい仕事をイメージできている生徒のほうが学習意欲が高い——。民間の調査会社が全国の高校生を対象にアンケートを実施した結果、職業についての希望と学習の取り組み方の相関関係が明らかになった。職業観を身につけるキャリア教育をどこまで充実できるかが、学力向上のポイントになると言えそうだ。

■ 高校生調査



アンケートは、大阪市の民間研究機関「応用社会心理学研究所」を中心とした研究会が昨年12月〜今年2月、東京、千葉、愛知、大阪の高校16校の生徒2014人に仕事に関する知識や学習への意欲を尋ねた。

回答した生徒の中で「将来、就きたい仕事を考えている」と答えたのは1512人。うち78%が「高校の授業でこれだけは身につけたい科目がある」と回答した。これに対し、将来就きたい仕事を考えていないとした

218人の中では、身につけたい科目があるとしたのは45%にとどまった。

「もっと学校の勉強を頑張りたいか」という質問では、就きたい仕事を考えている生徒の65%が肯定する一方、そうでない生徒は49%しか頑張りたいと答えなかった。

地元企業から話を聞くなどキャリア教育の授業を受けたことがあったとした生徒は766人。「授業は良かった」「やや良かった」と回答した生徒は4分の1あまりの193人だけで、関心をキャリア教育にどう向けさせるのか、指導法や指導内容の難しさが課題として浮上した。

同研究所は「将来の仕事をイメージすることが、これほど学習意欲に結びつくとは驚きだった。キャリア教育は、就職だけでなく進学を目指す生徒にとっても大切な」としている。

都立高校で20年以上にわたって進路指導を担当した京都造形芸術大の生駒俊樹教授(教育社会学)は今回の結果に関し、「成果を出すには生徒一人ひとりの興味や得意分野について体験を伴って理解させることが重要。その経験を通じて仕事のイメージを広げ、希望する分野で働く人に直接、仕事の魅力を語ってもらうことが効果的」と提案している。

(渡辺光彦)